

# 令和元年度第7回きのくにコミュニティスクールの推進に係る 研修会（海草・有田会場）

1. 日時 令和2年1月21日（火） 15時00分～16時30分
2. 場所 海南市民交流センター
3. 参加者 公立小・中学校教頭、市町教育委員会担当者  
学校運営協議会委員、共有コーディネーター 等 合計88名

## 4. ねらいと成果・課題

○学校・地域の教育力向上をめざして、学校運営協議会を活性化させるヒントを学ぶ

### （1）学校支援から協働の関係へ進化するために

支援から協働の関係へ進化するためには、学校は、学校運営協議会の場で課題等の情報を開示することが必要である。また、学校運営協議会委員は、「我が事」として学校と共に膝を交えて熟議し、行動していくことが必要であり、それが協働の関係につながることを学んだ。

### （2）地域と連携・協働した取組について

福祉教育の観点から、学校の課題は地域の課題でもあることを理解した上で、学校・地域が連携・協働した取組を進めることにより、子供の学びを支えるとともに、大人の学びにもつながっていくことを学んだ。また、将来の地域の担い手不足という課題に対しては、コミュニティ・スクールの仕組みを活用しながら共に考えていく必要がある。

## 5. 研修内容

### ◆講義

「コミュニティ・スクールへの期待」

きのくにコミュニティスクール推進協議会 副会長

有田市社会福祉協議会 上席主任

有田市立宮原小学校 学校運営協議会 副会長 宮本 朋子 氏

### （1）地域福祉とコミュニティ・スクール

社会福祉協議会の本来の目的は住民主体の地域福祉の推進である。地域福祉とは地域に暮らす誰もが安心して自分らしく暮らせる社会のために必要な概念や活動をさす。地域の課題を一人で解決することはできないため、仲間づくりをしていながら、次世代を担う子供たちに早くから福祉教育をしていく必要性を感じて実践している。また、学校も地域資源の一つであると考え、このような考え方を学校運営協議会委員が持ち、コミュニティ・スクールを進めていくと効果が大きいものになる。

### （2）学校における福祉教育

宮原小学校の福祉教育の一環として、高齢者宅訪問（児童と民生委員・自治会長等が高齢者宅を2回訪問）を実施。

[児童の変化]

- ・地域の大人と同じ課題に取り組むことで、地域の一員としての自覚が出てきた。
- ・地域の大人と一緒に高齢者を訪問することで、コミュニケーション能力や場に応じた態度が身についた。
- ・訪問先の方を喜ばせること、役に立てることを自ら企画できた。

[大人の変化]

- ・地域の課題を深く知ることができ、普段の活動に活かすようになった。
- ・児童の考えを聞くことで、大人自身も気づきと学びの場となった。

#### [訪問先の高齢者宅]

- ・高齢者にとっては、訪問を受け入れることが地域貢献活動となる。

⇒コミュニティ・スクールの仕組みを活かした実践に福祉教育の視点を取り入れると、子供だけでなく、関わる大人たちも成長することができ、地域自体もよくなるという期待がある。

#### (3) 地域福祉の課題

- ・特別支援学級の子供たちは地域と接点を持てているか。その保護者は地域に助けると言える環境にあるか。地域は、その子供や家庭のことを理解しているか。
- ・不登校・ひきこもりの問題を学校運営協議会で議論をしているか。

⇒これらの問題は、長引けば長引くほど社会復帰は難しくなる。早期に地域との接点を持ち、地域に居場所が必要。

#### (4) 学校への期待

- ・「地域に居場所を作るのは学校ではない」
- ・「学校が課題を開示しなければ地域の課題にならない」
- ・「実際の子供たちの姿を伝えてほしい、見せてほしい」
- ・「先生方のしんどさを開示してほしい。それを受け取るのは地域側である」

⇒学校の先生の多忙化が問題になっている。そのような中、学校は、もっと学校運営協議会を頼ってほしい。頼られると学校運営協議会も「我が事」となり、参画意識が変わる。

⇒そのことによって、本当の意味で「地域とともにある学校」に生まれ変わる。

## 6. 参加者の声（アンケートより）

### (1) 公立小中学校教頭

- ・学校運営を学校だけで取り組むのではなく、地域とともにある学校として、地域人材を生かしながら、保護者・地域住民とともに笑顔になれる学校にしていきたい。
- ・様々な実践が紹介されたので、また進化していけるよう努めたいと思った。熟議につながるコツも紹介され参考になった。また、引きこもりや障がい者といった問題にも地域として取り組んでいかねばならないんだと知った。
- ・講義の中で、「実際の子供たちの姿を伝えてほしい」とあった。熟議・協働・マネジメントの機能を果たすために正しい現状認識が不可欠である。子供たちは地域の一員であるという自覚を持ち、育っていけるよう地域の方々と共に支援していきたい。
- ・将来、子供たちに必要なことは、つながる力、人間関係を構築できる力だと思った。また、自分がつながるだけでなく、つながれない人を見つけていける方法を考えられる力が大切だと思った。
- ・学校運営協議会のあり方を考える上で多くのヒントをいただいた。イベントをすること、楽しむこと、それも大事だけれど、それが目的ではなく、地域の課題をどう共有していくか、そのような方向で進めたい。
- ・学校をもっとたくさんの方々に見ていただくことが、学校の様々な課題の解決の糸口になると思う。教職員の目だけでは見えない場合があり、きっと気づかされることもあるはず。どう子供たちを育てていくか、学校も地域も同じ思いだと思う。

### (2) 学校運営協議会委員等

- ・「何のためにやるのか」を考え、必然性があればとにかくしっかり熟議して行動してみることが大事では…地域で生きる子供たちのためにいろいろ考えてやっていきたい。子供は先生だけでなく、地域の大人からほめてもらうことで自信がつき、成長すると信じている。
- ・学校側に対して何でも言えるような委員として、また、地域とのつながり役になれるような学校運営協議会委員として前向きに取り組んでいきたい。
- ・CSを知ることによって、地域学校協働活動が今後どのような取組をしていくべきか考える機会となった。